

2018年4月18日
有識者会議 資料

町田市障がい者青年学級の 取り組みについて

町田市教育委員会
生涯学習部生涯学習センター

目次

1. 開設の経緯と沿革
2. 現状と目標
3. 活動の流れ
4. ボランティアスタッフについて
5. 意義と成果
6. 課題と今後の方向性
7. 補足資料

2. 青年学級の現状と目標

- 現在、166名の学級生が在籍し、活動日・活動場所ごとに「公民館学級」「ひかり学級」「土曜学級」の3学級に分かれて活動
- 学級生は自分の興味のあるコース(音楽、スポーツ、演劇、料理、工作など)を選び、希望別に10名程度の集団を構成し、1年間活動を共にする。ボランティアも同様に1年間同じコースで活動
- 開設当初から集団づくりによる「生きる力・働く力の獲得」という目標を掲げ、「自治」「生活づくり」「文化の創造」を3つの柱を軸に活動

学級名	活動日	活動場所	学級生	担当者	職員
公民館学級	毎月第1・3日曜日	生涯学習センター	64	19	2
ひかり学級	毎月第1・3日曜日	ひかり療育園	54	16	2
土曜学級	毎月第2・4土曜日	生涯学習センター	48	17	2
とびたつ会	毎月第2・4日曜日	コメット会館	23	10	

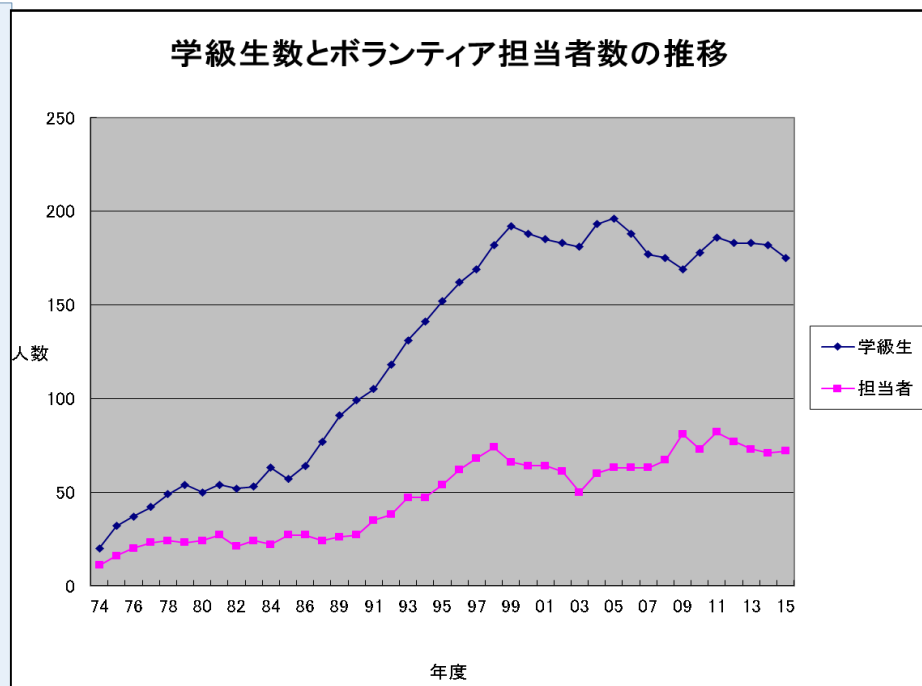
※とびたつ会は、青年学級の体制と規模の問題から、新人学級生が入れるように、青年学級を卒業し、本人活動の会を始める。

1. 開設の経緯と沿革

学校を卒業しても職場に定着することが困難で、転職を繰り返したり、退職して在宅を余儀なくされる、また、非行グループに巻き込まれることが起きるといった状況のなか、1973年、親の会から「集いの場」づくりの要望が出され、1年間の準備期間を経て開設

【沿革】

- 1974年 青年学級開設(学級生:20名)
- 1985年 コース制での活動開始
- 1988年 第1回「若葉とそよ風のハーモニーコンサート」開催
- 1991年 ひかり学級開設(学級生:105名)
- 1997年 土曜学級開設(学級生:169名)
- 2004年 本人活動の会
「とびたつ会」誕生
- 2014年 40周年記念式典開催



○2018年度4月現在

学級生:166名 ボランティアスタッフ:52名

3. 活動の流れ

時間	内容
10:00~10:30	朝のつどい
10:30~12:00	コース活動
12:00~13:00	昼食・昼休み
13:00~15:30	コース活動
15:30~16:00	帰りのつどい
16:00~17:00	班長会

○学級活動は「話し合い」が基本であり、活動内容はコースでの話し合いをもとに決定される。

○各コースの班長が集まり、学級全体に関わる活動について話し合い、決定する。

⇒集団決定による「**自治**」

○学級生の要求や仕事への誇り、喜び、苦しみ、仲間への思いなどを取り入れた「オリジナルソング」に代表される「**文化の創造**」

○つどいで歌うことで一体感の向上、外部へアピールする力

⇒文化活動に関わることによって、「**人生を切り拓く力**」

○生活・仕事以外の第3の場から生活・仕事を客観的に捉える。

○自らの生活を振り返り、自身を肯定し、人を思いやる仲間づくり

⇒思いの共有による「**生活づくり**」

4. ボランティアスタッフ(担当者)について

○青年を支援し、ともに活動する有償ボランティアスタッフ(現在52名登録)

○継続して関わっていただくことを前提に、報償費を予算化

(Ex.活動日1日:5,000円、夜間の会議1回:2,000円)

○活動内容:

- ・活動日当日の支援(年間16回+α)
- ・毎週木曜日夜間の会議への出席(年間35回)
- ・毎回の活動後の記録(ニュース)作成と発送準備
- ・年度末の総括と実践報告集の作成
- ・学習会の企画・運営

など

○構成としては、10代の学生から現役社会人の方、福祉施設職員、主婦、退職した80代の方まで、幅広く在籍

○学級生とは「教える・教わる」という関係ではなく、互いに学び合うフラットな関係

5. 青年学級の意義と成果

- ①学校卒業後における教育機会の保障
- ②本人活動の支援(「自治」による自己決定のための道筋の獲得)
- ③職場、家庭ではない、地域における「居場所」づくり
(思いを共有する仲間づくり)
- ④卒業生団体「とびたつ会」の誕生と継続
- ⑤生活面へのアプローチ・支援
- ⑥1974年から43年間事業が継続されていること

継続できた理由:

- ・スタッフ集団の形成と安定(謝礼の予算化)
- ・福祉との連携(ケースワーカー、直営施設職員の参画)
- ・父母会の存在

など

6. 課題と今後の方向性

【課題】

①学級生と保護者の高齢化

- ・送迎問題、身体機能の衰えによる介助の増加

②スタッフの不足

- ・ベテランの高齢化、以前主力だった学生担当者の減少

③スタッフの経験とスキルのばらつき

- ・スタッフの入れ替わりが多く、理念とスキルの継承が難しい

④新入生募集の抽選化

- ・「卒業」がないため、①～③により、希望者全員の受け入れが出来ず

【今後の方向性】

①大学等学校や、福祉関係団体との連携

②あり方の再検討

7. 補足資料【各種データ】

(1) 学級生数と担当者数

年度	1974	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2016
学級生	20	50	57	99	152	188	196	178	171
担当者	11	24	27	27	54	64	63	73	64

(2) 学級生の年齢構成(2016年度)

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	計
男	0	17	31	55	8	2	0	113
女	0	7	10	29	8	3	1	58
合計	0	24	41	84	16	5	1	171
割合	0%	14%	24%	49%	9%	3%	1%	100%

(3) 愛の手帳(療育手帳)の程度区分(2016年度)

区分	1度	2度	3度	4度	計
人数	4	71	76	19	170

(4) 市内の18歳以上の愛の手帳所持者 2,237名(2016年度)

(5) 2016年度町田の丘学園高等部3年生 68名

7. 補足資料【文化創造の一例】

オリジナルソング「♪ 拍手」

わたしは けやきのウエイトレス コーヒーだしたり オーダーとり
お客さんがいっぱいだと 頭がグルグルパニックになるよ

ぼくもクリーニングの仕事で 1日たちっぱなしさ
なればきつとだいじょうぶさ だけどムリはぜったい
ダメダメダメよ

そんなときはおたがいに 力をあわせてがんばろう
ここにすてきな 仲間がいるから

はくしゅ はくしゅ 働くことのよろこびに
はくしゅ はくしゅ とともに働く仲間たちに